

体験者のお話

20歳代から検診を定期的に受けており、昨年の検診結果では、高度異形成（前がん病変）と言われました。
すぐに大学病院を紹介してもらい、簡単な手術を受けました。
手術と言っても子宮を取らず、切除は最小限で済み、将来の妊娠に影響する心配は少ないと言われ安心しました。
また、発見が早かったので、がんにはなっておらず、今後は経過観察で大丈夫と言われました。
検診は数分で終わるし、痛みもほとんどありません。
今後も自分と家族のために検診を受け続けたいと思います。

（30歳代 T.T）

子育てで忙しいママたちに
今、知ってほしい。

子宮頸がんの発症年齢のピークは 出産年齢のピークの30歳代

だから、2年に1回、子宮がん検診を。

子宮がん検診について

対象となる方には、がん検診等受診券（チケット）とご案内をお送りしています。

■対象者 20歳以上の女性区民で、前年度区の子宮がん検診未受診の方

■費用 700円（体部細胞診検査も実施する場合は+300円）

* 検診を受診する年度の前年度の住民税非課税世帯の方などは、検診費用が無料になる場合があります。

■申込方法

実施医療機関に電話で直接申込み。

実施医療機関については、練馬区ホームページ等でご確認ください。

練馬区子宮がん検診実施医療機関

検索



* 検診ではがんではないのに「要精密検査」と判定される場合やがんがあるのに見つけれない場合もありますが、定期的な検診受診により発見できる確率が上がります。

お問い合わせ先

■子宮がん検診について

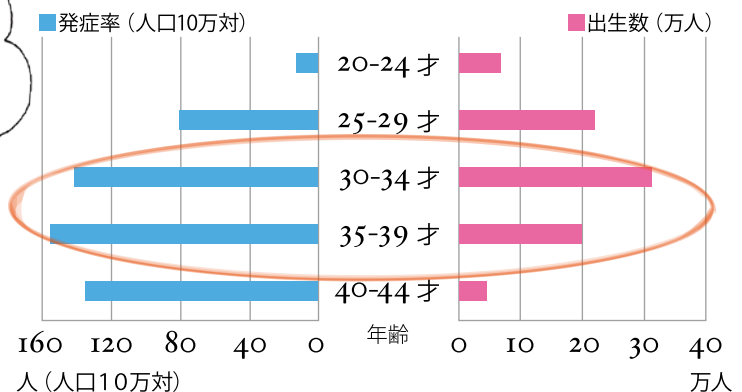
健康推進課成人保健係 ☎ 03-5984-4669

■パンフレットについて

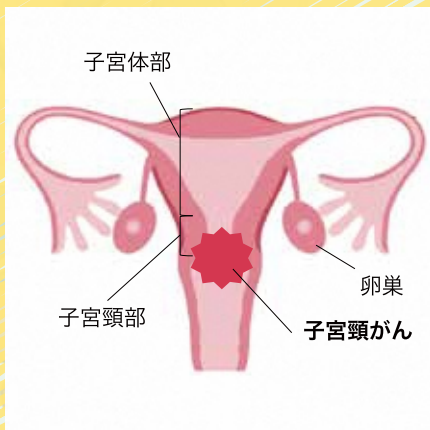
健康推進課健康づくり係 ☎ 03-5984-4624

発症率と出生数の
ピーク時が
重なっている！

子宮頸がん発症率と母の年齢別出生数

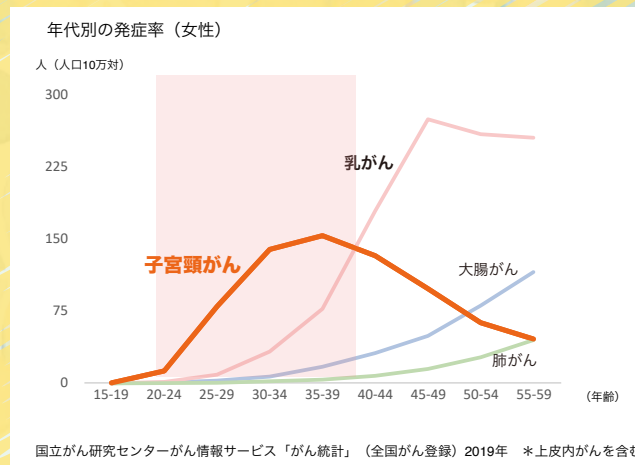


HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が主な原因です



- HPVは、主に性交渉で感染します。
- HPVはごくありふれたウイルスで、性交経験のある女性の多くが、一生のうち一度は感染すると言われています。

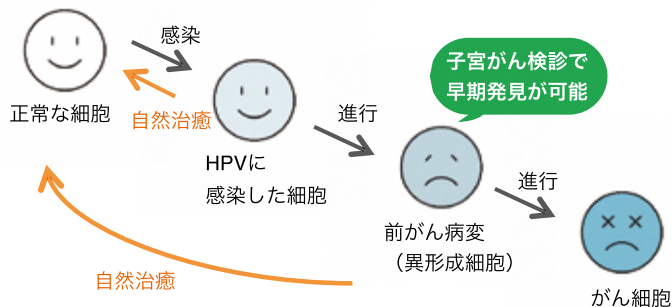
若い世代の女性のがんの中で、多くを占めるがんです



- 毎年約1万人の女性が子宮頸がんになり、毎年約3,000人の女性が亡くなっています。
- 子宮頸がんは20歳代から増え始め、30歳代までに治療で子宮を失う女性が毎年約1,000人います。
- 子宮頸がんは、初期の頃にはほとんど自覚症状はありません。

2年に1回、定期的に検診を受けることで、がんになる前を見つけることができます

子宮頸がん細胞の発生メカニズム



HPVに感染してから、数年～数十年で一部ががんへと進行します。

*早期に発見できれば、子宮を残し、妊娠や出産が可能な状態で治療することもできます。

*下記の症状がある場合は検診を待たずに医療機関を受診しましょう。

- ・生理のとき以外の出血
- ・性行為による出血
- ・茶褐色や臭いのあるおりもの
- ・下腹部の痛み など

*検診で「精密検査が必要」と判断された場合は必ず精密検査を受けましょう。

ちょっと気になるQ&A

Q 家族に子宮頸がんになった人がいないので、かかることはないですか？

A 子宮頸がんは、ウイルス感染が原因のため遺伝に関係なく、誰でもかかる可能性があります。

Q 子宮がん検診は2年に1回の受診で大丈夫ですか？

A 子宮頸がん発症まで、一般的に非常にゆっくりと進行するので、2年に1回の検診(子宮頸部細胞診)が推奨されています。
出産後も継続して受け続けましょう。